

【研究主題】

豊かな心を育てる道徳教育の創造

- 心に響く道徳の時間の充実をめざして -



豊かな心を育てる道徳教育の創造



「豊かなかかわり」

ことば

多様な意見・価値観



(意味)

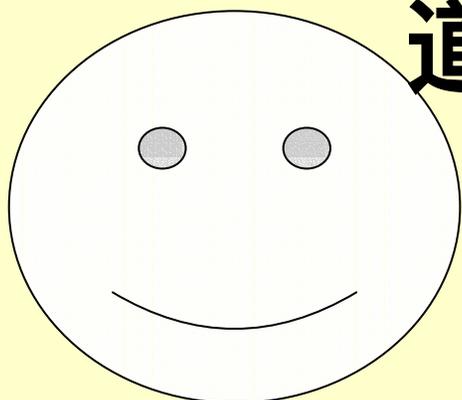
ことば

(心情)



温かい人間関係

道徳的価値の自覚



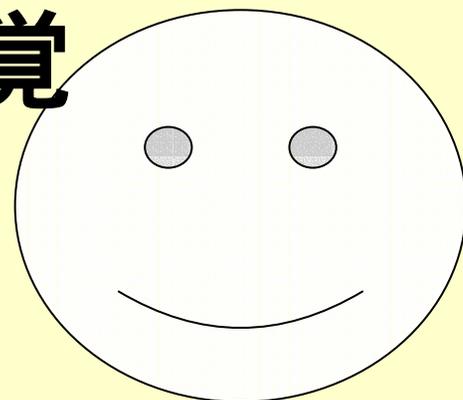
伝わった満足感

(意味)

ことば

(心情)

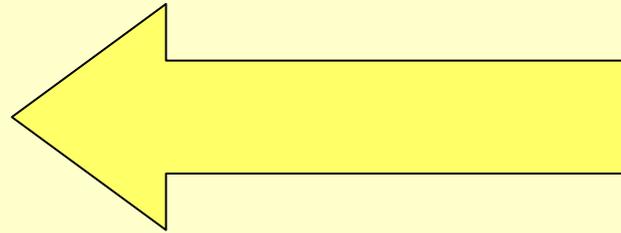
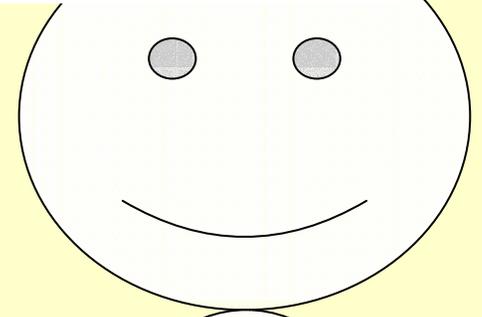
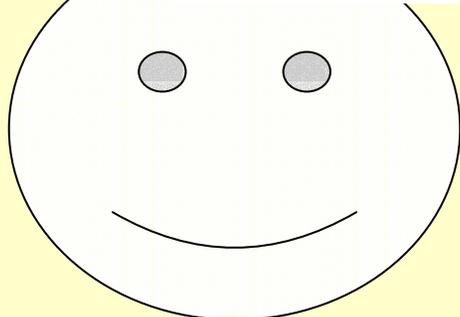
伝えたい



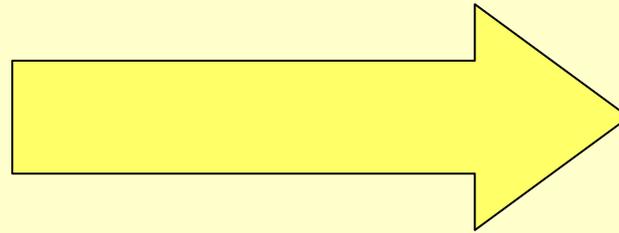
汲み取った話し
手の心情

豊かな人間理解

心に響く道德の時間



伝え合う



自分なりの言葉

自分なりの言葉

人間理解
他者理解

<豊かなかわり>

< 道徳の時間 >

発問の工夫

基本発問 中心場面の前後で価値の把握を効果的にするための発問。

中心発問 ねらいとする価値を追求させるための発問。

補助発問 意図する内容を角度を変えて見つめさせたり，子どもの反応を焦点化して考えさせたりする発問。

< 本年度の指導案 >

ねらいの明確化

内容項目を子どもの視点で

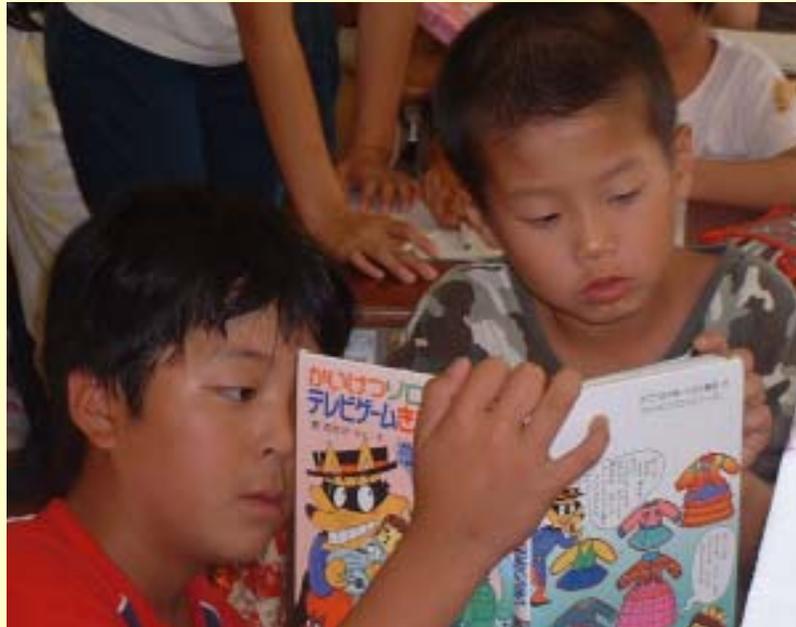
教師の願う子どもの姿の明確化

日々の共感的理解を大切にした

実態把握

発問の意図を明確にした指導観

< 道徳の時間における 伝え合う姿の実際 >



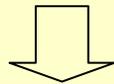
< あらすじ >

主人公グレンはふとしたはずみで両足におおやけどをおってしまふ。医師からもう歩けないかもしれないと言われつつも、歩く努力を続け、ついに歩くことができるようになったという話。

「すごいなあ」

||

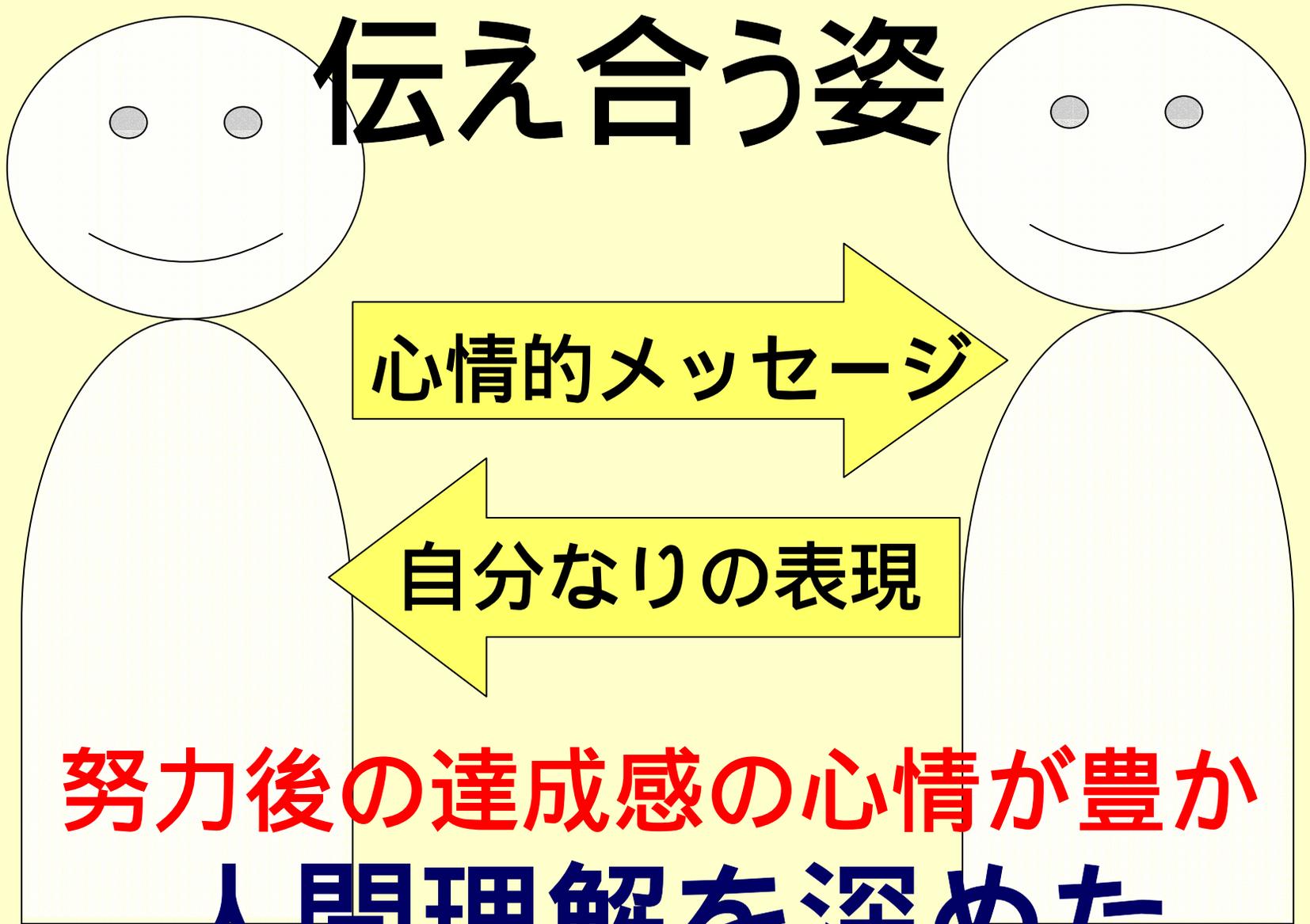
努力してやり遂げた自分を誇らしく思う



「最初は立てなかったけれど、毎日痛いのをがまんして、練習していたら立てたから自分でもうれしい。」

「お医者さんに治らんかもしれんと言われても、1年間練習して立てるようになったから自分でもうれしい。」

伝え合う姿



努力後の達成感の心情が豊か

人間理解を深めた

伝え合う姿

< 高学年 >

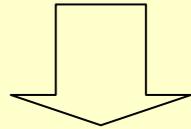


< あらすじ >

詩を書くことを得意としている主人公が学級文集に載せる詩を書くとき、他の詩集にある表現を写してしまう。主人公は迷いながらも正直に話し、最後には自分自身で作ったオリジナルの作品を文集に載せていくという話。

「なんで私は
あの時写して
しまったのだ
ろう。」

後ろ向きな思い



「やったことはしかたがない。」

あきらめよう

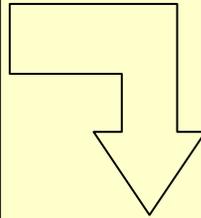
後ろは振り返ら
ず、前に進もう

< 多様な意見 >

「ああ，もうだめだ。」

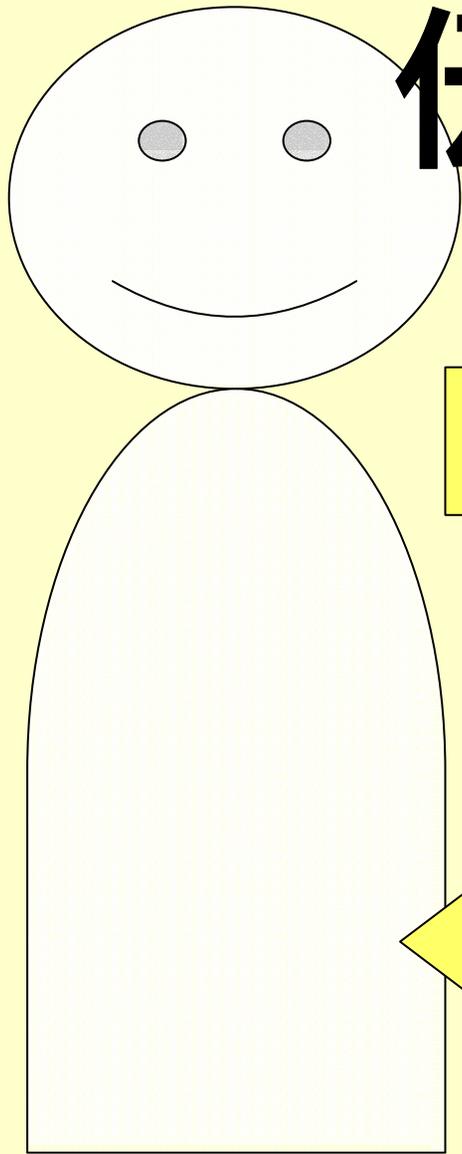
「ばれてしま
う。」

「まだ書き直す
チャンスはあ
る。」



「後悔もするし，
気持ちも，もやっ
とするから自分の
ために書き直した
い。」

伝え合う姿



心情的メッセージ

多様性

自分なりの表現

フィルター

発言の多様性

人の弱さ至らなさを
含む多面的な人の心
情の理解

＝

真の人間理解

道徳の時間は楽しいと思います

